



前号ノ續キ
認可状授與法



2200



414
A2310

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈



千八百七十四年ニ於ケル宇國政府ノ歳出入ニ付認可状ヲ得タ
ル事ハ左ノ如シ

千八百七十五年大藏卿ヨリ千八百七十四年度ニ於ケル豫美超
過高及ニ追テ許可ヲ請求スベキ額外出費ノ詳載シタル歳出入
豫美一覽表ヲ國王ニ呈セリ

同シク七十五年十一月二十四日國王ヨリ之ヲ國會ニ出スベキ
旨ヲ許可マラレ而シテ翌年一月十七日大藏卿ハ之ヲ國會ニ送
達セリ

右一覽表ニハ豫美超過高及ニ追テ許可ヲ請求スベキ額外出費ニ
付テノ理由モ亦記載セリ但シ該表中歳出ヲ区別スルノ如
シ

大藏省

意見	故=豫定金額=對		合計	拂り残り金	支出せし金額
	少	多			
追テ許可受クヘキ豫美超過高					
小々許可ヤラレナル非常ナシテ豫美未掲ケザル金額					
又該表ニハ總テ其中ニ示シタル詳細ノ要ヲ採録シ而シテ其摘要ノ終末ニハ左ノ文ヲ掲ク					
上ノ一覽表中國會ノ認許ヲ要スベキ豫美超過高ニ成法上ノ定規ニ準據マザル額外費ハ従前ノ如ク特別ノ表ニ於テ示セザリ即チ					
豫美超過高					
額外費					
余望ム此合計千六百四十三万二千九百零百タールニ十七タールベルグロームンハ今茲ニ示シタル理由ニ基ツキ認可セラレ					
豫美超過高中諸工商事業ニ付使用セシ金額					
何ク					

又該表ニハ總テ其中ニ示シタル詳細ノ要ヲ採録シ而シテ其
 摘要ノ終末ニハ左ノ文ヲ掲ク
 上ノ一覽表中國會ノ認許ヲ要スベキ豫美超過高ニ成法上ノ
 定規ニ準據マザル額外費ハ従前ノ如ク特別ノ表ニ於テ示セ
 ザリ即チ
 豫美超過高 千三百八十四万四千四百八十八タール
 ハルベルグロームン
 額外費 二百五十八万八千四百十三タール
 十九タルベルグロームン
 余望ム此合計千六百四十三万二千九百零百タールニ十七
 タールベルグロームンハ今茲ニ示シタル理由ニ基ツキ認可セラ
 レ
 豫美超過高中諸工商事業ニ付使用セシ金額 何ク

今

其他ニ使用セシ金額

何タール

伯林府何年月日

大藏卿

何某

右豫美超過高差ニ額外費ハ千八百七十六年六月二十日ノ下院會議同シク六月二十六日ノ工院會議ニ於テ夫レ認可セラレタリ
然レニ工等検査局ハ此ノ如ク大藏卿及ニ國會ノ間ニ於テ終テ
セル決美認可ニ係ルラス別ニ自ラ検査ヲ執行ス

工等検査局ハ千八百七十四年度ニ於ケル各局ノ計美(七十五年六月三十日ニ領収ス)千八百七十四年度ニ於ケル地方ノ計美(七十五年十月一日ニ領収ス)并ニ諸省ノ計美(之レク後レテ領収ス)ヲ一ケ年間ニ悉皆検査シ且ツ不当ノ箇所ニハ非難ヲ記入スル

右ニ付キゾルニハ氏ノ際ニ所左ノ如シ
千八百六十六年二月四日ニ於テフライヘール、ブルニヒ氏ノ出
板ヤシ澳國、寧國、ワックセン、バーニ、クキル、ラムベルク、バーデ
ン、佛國、及ニ、アルキエ、ン、豫美報告會
計美監督方法條々ヲ見ルベシ

上等検査局ニ於ケル非難ノ記入ハ、分ラ之ヲ二種トス則チ一ハ
計美官吏自ラ辨解スベキモノ又一ハ之ヲ所轄セル省廳ノ辨明
スベキモノ是ナリ而シテ凡ソ卿ヨリ布達セラレタル成規若クハ
其認可ニ準拠セル計美ニシテ上等検査局ノ意見ト支吾シ因テ
非難記入ヲ受ケタルモノハ其卿ヨリ書面ヲ以テ之ヲ説明スベ
シトイハル若シ此類諸遂ニ氷解セザル時ハニ等検査局ヨリ國
ニ一奏呈スベキ年報ヲニ右意見相違ノ處ヲ登記シ以テ國王ノ
勅裁ヲ受クベシ但シ此勅裁ハ規定ノ効力ヲ有スルモノニシテ

上等検査局ニ於テ復タ之ヲ動シ得ベカラズ然テ該局ニ於テ
ハ各地方廳ヨリ出テ計美ニ係ル検査録事ハ丹之以テ其地方
廳ニ又諸省ヨリ出セシ計美検査録事ハ該省ノ卿ニ送付シ以テ
非難事件ニ對スル弁明及ヒ答辨ヲ為サシムルモノトス
一千八百七十七年五月十一日ノ成法ニ從ハハ上等検査局ハ其
指摘マシ簡條ノ辨明美點ノ釐正等ノ事務ヲ遂メモ次キノ年度
ニ全ク整理シ了フベキヤウ注意スルノ義務アルモノトス但シ
一千八百七十四年度ニ於ケル計美検査ノ結局ハ上等検査局ニ
於テ一千八百七十七年五月一日迄ニ全成セリト雖モ其過半ハ
己ニ一千八百七十六年中能ク之レヲ整理シ了ヘタリト云フ
上等検査局ハ計美方カ之ノ其責任ヲ尽シ且ツ指摘セラレタル
非難ヲ明亮ニ辨解セシ時ハ之レガ認可状ニ授与スベシ但シ該
状 字國普通則法第一卷第十條項第百四十六條乃至第百五十

六條ニ掲ケタル効力ヲ有スルモノトス
註ニ曰今書中他人ノ財産管理定規 章ニ掲クル條項
ハ左ノ如シ
第百四十五條 計美書ノ引渡シ若シ其正誤ヲ為シ了ヘ
シ後ハ管理方之レカ証状ヲ要求スルノ權アリ
第百四十六條 然レハ管理者若シ不正ノ所為ニ於テハ
計美上ノ誤謬ヲ後日發覺セラレタル時ハ仮令ヒ右証状
ニ於テ一旦認可ヲ得シトイヘドモ其美ヲ免カルハ能ハ
ス
第百四十七條 然レハ管理者ハ先ニ計美ノ誤謬ヲ以テ
自己ノ損害ト為リタルニ後ヨリ其誤謬ヲ發見シ損害ヲ受
ク可カラザル理明白ナルハ其財主ヨリ之レカ賠償ヲ
要求スルコトヲ得ベシ

第四百十八條 又計美ノ事件ニ付ラモ管理者ハ授子
セラレタル証狀ニ拘ハラス其答辨ヲ爲スベキ責務ヲ
負フモノトス

第四百十九條 管理者ハ既ニ認可狀ヲ受クルト雖モ財
主ノ外亦他人ノ要求ニ對シテ(假令己ニ決美セシ所ノ事
件ニ係ルモ)之ヲ答辨スベキ責務ヲ負ハレ、能ハザルト
論ヲ待タス

第四百二十條 一回決美ニ認可狀ヲ得タル後己ニ年
ヲ經過スルニ付テハ(假令何等ノ口実アリト雖モ)復タ之
ヲ是非スルヲ得ス

第四百二十一條 此ノ如美或ハ除美ノ際ニ生シタル誤謬
及ビ管理中ニ犯爲スル罪愆ニ付テハ、財主ハ十年後ノ
久シクニ及フモ尚モ管理者ニ詰問スルノ權アリトイヘ

凡其相続人ニ對シ、其權ヲ有セザルモノトス

第四百二十二條 第四百十條ニ掲ケ、期滿得免期限ハ管
理者殺年来引續キ取返シタル事務ニ付テハ其放免又ハ
決美ノ後終末ノ証狀若クハ惣証狀ヲ受ケシ当日ヨリ美
スルモノトフ

第四百二十三條 然レハ(定期)ハ管理者ノ相続人ニシ
テハ各年計美ノ証狀ヲ授与セラレシ日ヨリ起美スルモ
ノトス

然レハ計美官吏如シ其擔當セル官金ニ不足ヲ生シ且ツ其詰問
ヲ辨解セザル片ハ上等検査局ハ該官吏所轄ノ省廳ヲシテ之ヲ
追糺マシノ且ツ右計美上ノ不足ヲ收入ノ部ニ記入セシム
各若長官ハ其管理内ニ係ル各箇ノ計美ヲ總括セル計美ヲ上等
検査局ニ出シ己ニ該局ノ検査ニ經タル出納實額ト符合セル旨

大蔵省

ノ認可ヲ受クベキモノトス
又上等検査局ニ於テ首局計美ヲ認可シ而テ其終末ニ左ノ如ク
載ス

以上首局計美ノ総額即チ

實際収入 百十四万二千九百十五タール何ゴローメン

収入残金 二十四万零三百二十二タール全

實際支出 千二百零二万九千九百零五タール全

出残額 二十二万三千八百零七タール全

右ハ当局ニ於テ検査マシ出納実額ト相符合ス因テ今之ヲ認

可ス

但シ右計美ノ左ノ内西ニ於テ出納実額ト差異スルヲ以テ
難ヲ記入ス

上等検査局

何年何月

各首局計美ハ一千八百一四年度ニ於テ其数三十フリキ而シテ
貯ノ如ク認可セラレタル経費ハ其省廳ヨリ之ヲ大蔵卿ニ進達
シ又大蔵卿ハ之ヲ上等検査局ヨリ認可セラレタル本省内外記計
美ニ合テ以テ大計美書編製ノ材料トス但シ此大計美ハ内ノ
上國王ノ勅命ニ従テ國會ニ送付スルモノトス(以上「ソルニ」氏
ノ著述ニ拠ル)

但シ該大計美書ノ表題左ノ如シ

千八百七十四年度ニ於ケル會計惣計美表ニ附録

而シテ此惣計美書ノ終末ニ掲クル「」ノ如シ

教部事務附録第二十

ニ揚ケタルモノヲ除クノ外ハ當局ニ於テ検査セタル支局州局

ニ中央局出納経美ト相ヒ符合セリ

ホソツダム千八百七十六年十二月五日

上等検査局

(姓名)

此非難ヲ受テシ一千八百七十一年度ニ於ケル總計美書ヲ國會ニ送付スル方リ大蔵卿ハ先ツ同書ノ初メニ於テ去書マラレタル差違ヲ説明ス則

(甲) 附録第一ニ對スル辨 此差違ハ全ク表題ノ相違マシ

ニ由ル

(乙) 附録第四ニ對スル辨 一千八百七十六年七月八日正

検査局ノ指定スル如ク第一項及ヒ第五項ノ差違ハ表

題ノ相違スルニ由リ第二項及ヒ第七項ハ書頭第四項

ハ誤テ出納局計美ヲ共歳未総計表ト誤認セシメタル

ニ由ル云々

大蔵卿ハ悉皆ノ差違ヲ説明セリ

此他上等検査局ハ千八百七十四年度ニ於ケル會計總計美書ヲ

國會ニ送付スルニ付尚ホ八一十五箇ノ意見ヲ附載セリ

大蔵省

右意見ノ細領左ノ如し則チ

(第一) 豫美表中不字ノ表題ヲ為ケタル事

甲 歳入ニ付

乙 歳出ニ付

(第二) 誤リ歳出ヨリ歳入ヲ差引又歳入ヨリ歳出ヲ差引タル事

(第三) 餘金亦入ノ事

(第四) 不当ノ停高

(第五) 二重ノ拂渡

(第六) 計美上歳出入ヲ欠漏スル事

(第七) 説明

甲 成規ノ施行ニ関スル事

乙 豫美定規ニ関スル事

五十二

(第八) 成法ニ粗糲スル事

(第九) 豫美ニ粗糲スル事

(第十) 豫美ヲ令備スル事

(第十一) 各局豫美ト出納局豫美ト粗糲スル事

(第十二) 餘分ノ歳出ヲ差引キ之ヲ翌年準備金ニ加フル事

英ニ豫美年度中其支出ヨリ金額ノ計美ヲ為サバ

(第十三) 豫美ニノ令備金額ヲ不当ニ増加セシ事

(第十四) 現金ヲ利用スル事

(第十五) 動カスベカラザル資金ヲ以年度費目ニ廻付セシ事

(第十六) 豫美高ヲ超過スル事

(第十七) 豫美超過高ヲ誤記スル事

(第十八) 豫美超過高ヲ隠秘セル事

(第十九) 豫美外ノ歳出

歳省

第二十 假り意見

第二十一 資金比美ノ修正

國會ハ右工等検査局ノ意見ヲ資テ大蔵及各行政官ノ是非ヲ議定シ得ル權アリト雖氏之レ極メテ稀レニシテ斯ノ如キ意見ハ通常唯^各タ首廳ノ注意ヲ勸奨スルニ供スルノミ

但終末ノ意見ヨリ千八百六十五号ニ於テハ尙ホ未タ國會ノ認可ヲ得ザル豫美超過高差ニ額外費ニ記載セリ大蔵卿ヨリハ千八百七十六年一月十七日ニ於テ千八百七十四年度ノ歳出入豫美表ヲ以テ巨多ノ豫美超過高差ニ額外費ヲ國會ニ指示シ而シテ國會ヨリハ千八百七十六年六月ニ至リ之レヲ許可

該工等検査局ノ認可及ヒ意見ヲ資ハタル千八百七十四年度ノ

又 13

會計總計美ハ一千八百七十一年十月ニ至リ初メテ國會ニ送達セテレタリ

但シ此最後ノ認可状即チ國會ノ認可ナリ及陪ニ涉リザルニシ

氏ノ陳述スル所左ノ如シ(同氏ノ著書第二十)

會計計美ハ國王ノ勅令ニ因リ認可ヲ受ルベキ為メ之ヲ國會ニ

交付シ該會之ヲ三考ト認ルルニ認可状ヲ付子ス而シテ該會ハ國會兩院ノ議長ヨリ之ヲ大蔵卿ニ送付スルナリ(若シ兩院院

ハ該計美ノ諸項ニ涉リ意見アレハ之ヲ認可状ニ副載シ大蔵卿ノ注意ニ供フ)

但法例全書ニ於テハ右認可手續ニ付キ一モ明文ナク只々通常ノ國會議事報告ヲ掲クルノミ云々

千八百八十年一月二十一日

マノエツト

14

14

